



# 城北小だより

9月号

令和5年8月29日

さいたま市立城北小学校

TEL 048-757-5391

児童数698名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

## いよいよ2学期のスタートです

校長 中村 篤

夏休みも終わり、学校にも子どもたちの元気な姿と声が戻ってきました。熱中症が心配される中、無事に始業式を迎えることができたのも、子どもたちの生活を見守ってくださった保護者・地域の皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。

さて、恒例の6年生の息子の話です。昨年同様、夏休みの宿題が最終日まで終わりませんでした。「自由研究は自由課題だからやらない」とふざけたことを言っていました。夏休み終了3日前に自由研究を始めました。息子は私が手伝ってくれることを当然とされており、具体的な研究の進め方やアイデアを自分から出すことがなかなかできません。時間も限られているので今回も一緒にかなりの部分を手伝ってしまいました。お子さんをもつ知り合いの理科の教員にこの話をすると、その教員は「自由研究についてはすべて子どもに任せている」と言っていました。そのお子さんは自分で研究テーマを決めて、思いついた観察・実験をどんどんやるそうです。親としては、危険がないか、無理がないかということについてのみ助言をするのだそうです。通知表の評価の観点にある「主体的に学習に取り組む態度」を家庭でも育てているのだなと感心させられた一方、自分の息子への接し方についても反省させられました。

話は変わり、ジブラルタ生命保険株式会社が20歳～69歳の教員2000名を対象に実施した「教員の意識に関する調査2023」の集計結果について、先月公開されました。調査内容は、教員の学校生活や職業観、教科に対する意識・実感についてなど、多岐にわたるものですが、私が特に面白いと思った項目は「教員あるある」です。「夏休みがあつていいねと言われる」(51.6%)が最も高く、次いで高くなったのは、「児童・生徒の珍回答に笑ってしまう」(47.6%)、「字を見ただけでどの児童・生徒かわかる」(44.3%)、「校区では慎重に行動する」(42.0%)、「大切なプリントを配り忘れて焦る」(35.6%)、「スーツでもスニーカーを履く」(34.1%)、「声が大きいと言われる」(33.8%)でした。全くそのとおりで、声が大きく、スーツに運動靴・白い靴下をはいていたらほぼ間違いなく教員です(授業や生徒指導等、屋外で行動することが多いため、たまにこのような服装になってしまいます)。「夏休みがあつていいね」は本当によく言われます。しかし、夏季休暇の5日間以外は基本的に勤務となります。児童がいないのに何をやっているのかと思われるでしょうが、2学期の教材研究、教室等の環境整備、行事の計画、校外学習の下見、教育委員会による各種研修会への参加、校内研修会、各種会議等々、やることを挙げたらきりがありません。先日の体育の実技講習会では、若手からベテランまで、跳び箱の難しい技に挑戦し汗を流していました。ということで、2学期に向けての準備は万全です(万全のはずです・・・)。

また、先の調査で、理想の教師像に合う映画・ドラマの先生キャラを聞いたところ、「坂本金八(3年B組金八先生)」(310名)がダントツとなり、2位「山口久美子(ごくせん)」(124名)、3位「鬼塚英吉(GTO)」(88名)、4位「桜木建二(ドラゴン桜)」(61名)、5位「北野広大(熱中時代)」(55名)となりました。どれも熱血で子ども思いの教師という印象です。城北小の子どもたちの理想とする教師像はどのようなものか聞いてみたいものです。本校の教職員も皆子ども思いで、子どもたちのためならば労を惜しむことはありません。教育活動において夏休みの研修の成果を子どもたちに少しでも還元できるよう努めてまいります。保護者・地域の皆様には、一層のご理解・ご支援を頂けよう、よろしく願いいたします。